令和２年８月 29 日（土）

半明（はんみょう）遺跡現地説明会資料

島根県埋蔵文化財調査センター

県埋蔵文化財調査センターは、国土交通省松江国道事務所から委託を受けて、大田静間道路改築工事地内の半明遺跡の発掘調査を６月から行ってきました。この調査が終了しましたので、明らかになった遺跡の状況をご紹介します。

１．遺跡の状況について

遺跡は、蓮教寺の西に位置します。谷地形のため、水の流れた流路や、山から流れ出した大小の礫が一面に広がった状態で見つかりました。

流路は、平安時代のもので、３本が確認されています。最も東側の流路は、幅１メートルほどあり、水が流れたことを示すように砂と小石で埋まっていました。底面には、杭が並んで打ち込まれており、水路として利用されていたことが考えられます。

この他に、大・小の穴が地面に掘りこまれていますが、整然と並ぶものはなく、建物跡は確認できませんでした。

２．出土遺物について

平安～鎌倉時代初め頃（10～13 世紀）の陶磁器・土器が発見されました。

このうち、10 世紀代の須恵器は、底に「東」という漢字が墨で書かれています。土器の底部を利用した硯（すずり）も出土しており、付近に文字を書くことができる人物がいたようです。文字に関わる土器が見つかったことは、役人や僧が遺跡の近くにいたことを想像させます。

10～12 世紀の青磁、白磁は、中国南部地方で作られたもので、貿易によって日本にもたらされたものです。特に、10 世紀の青磁は数少なく、これを入手できるような経済力のある人物がいたようです。

半明遺跡では、役所や寺、有力者の館が明らかになったわけではありません。しかしながら、文字の書かれた須恵器や、当時は貴重であった青磁・白磁が見つかったことは、近くに役所や有力者が暮らす施設があったことを思わせます。

半明遺跡と周辺の遺跡

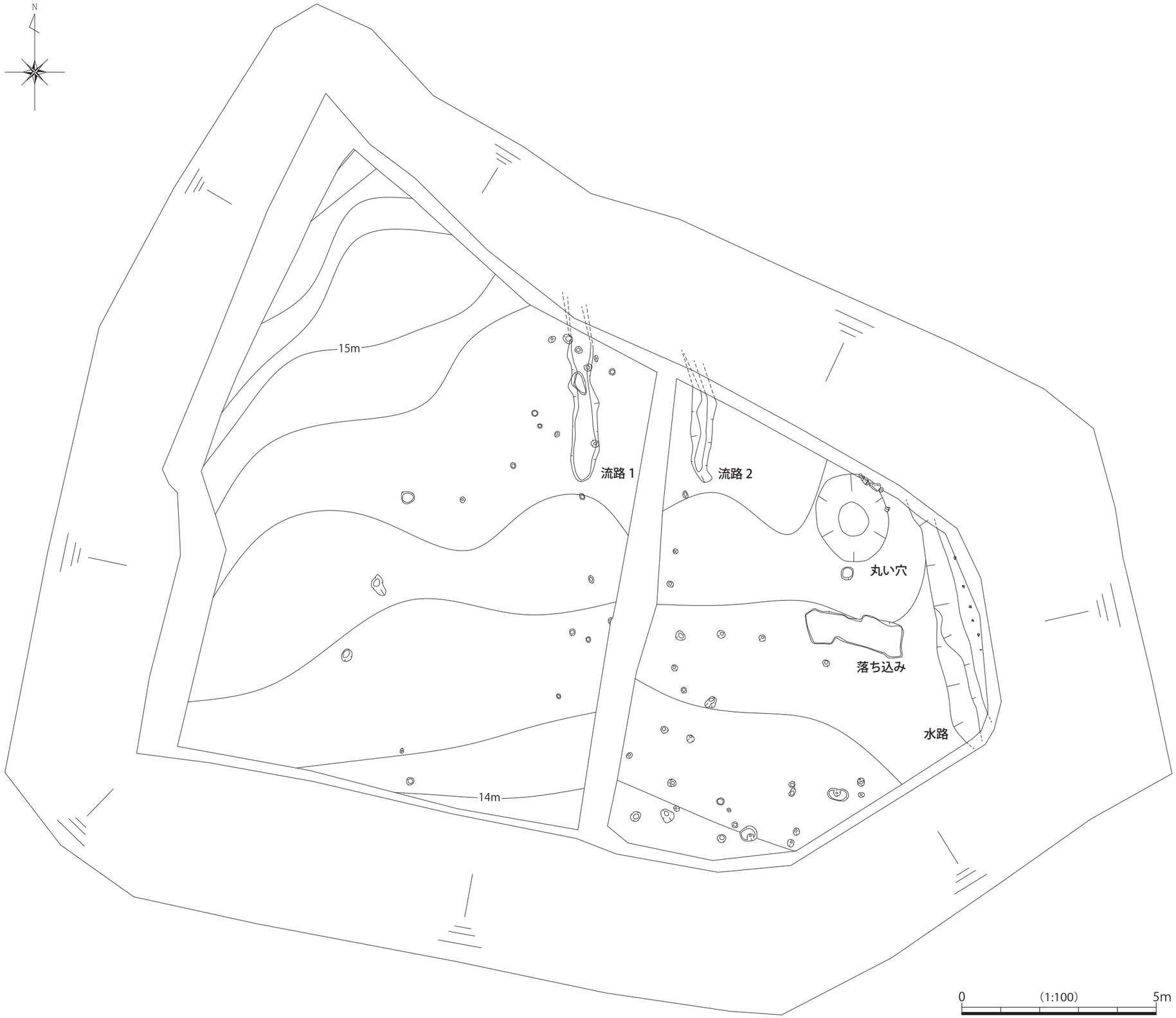
御堂谷遺跡（弥生時代前期後半の高地性集落、奈良・平安時代の仏教関連遺物が出土）

鳥井南遺跡（弥生時代中期～古墳時代の集落跡、古墳時代の祭りに関わる土製品が出土）

八石遺跡（奈良・平安時代の遺跡、古代の円面硯や中国製の白磁碗が出土）

鯛渕遺跡（奈良・平安時代の遺跡、墨書土器「郡」・「佛」、刻書土器「司」が出土）

平ノ前遺跡（弥生・古墳時代の遺跡、古墳時代の祭りに関わる土器・金銅製品が出土）



半明遺跡平面図